

## 第 11 週

### 質問 29. なぜ神の御子を、救い主・イエスと呼びますか。

**答え I** その方が私たちを救い、私たちを罪から救われたからです。<sup>01</sup> 唯一の救いをほかの誰かに求めてはならず、ましてや見出すことなどできないからです。<sup>02</sup>

① 使徒信条の第二の部分は、神の御子、贖い主の人格と働きに対することです。父なる神を知って信じるのが必須であるように、神の御子を知って信じるのが必要です（ヨハネ 14:1）。神の御子をイエスと呼びますが、ここには、信仰と関連してすべてを理解すべきです。キリストという名は、救い主を指す言葉です。これは、父なる神によって与えられた名です（マタイ 1:21）。この名は、昇天なさった以降もイエスさまがご自身について使用なさいました（使徒 22:8）。

② 救いとは、罪から救い出すことです。それゆえ、救い主とは、ご自分の民を彼らの罪から救う方のことを指します（詩 30:8, 130:8, 1 ヨハネ 1:7）。救いには、罪と悪から救い出されるだけでなく、救い主を喜び、その方から慰めを受け、その方を褒めたたえる意味も含まれます（詩 16:11）。

キリストは救いの道を啓示なさり、奇跡と聖なる生活と忍耐の死をもって啓示を確証されました（Ⅱテモテ 1:10）。また、その方は、律法が要求するままに

---

01 マタイ 1:22、ヘブル 7:25.

02 イザヤ 43:11、ヨハネ 15:4-5、使徒 4:11, 12、1 テモテ 2:5.

従って、罪人たちの代わりに恐ろしい審判に耐えられたことで、神の公義を満足させ、救いを獲得しました（イザヤ 53:4-5）。その方は、聖霊を通して救いを私たちに分け与えてくださいますが、ご自身が獲得された救いを、罪人たちに有効に適用させるのです。

③ 主は、救いを一気に適用させずに、漸進的に適用させます。先ず、聖霊によって新生させ、更新させる働きもなさいます（テトス 3:5）。そうした後に信仰を与え、その信仰によって救い主を自分自身に適用させ、救われるようになります（エペソ 2:8）。そして、罪と悪からも赦しを賜い、恵みによって得る信仰によって、義と認められるようにさせるのです。

イエスさまは、このように救いを罪人たちに有効に適用させ、伝達させることで救います（ロマ 8:33-34）。そして、聖霊を通して平和と喜びをお与えになります（ロマ 14:17）。望みを付与することで恥にならないようにし（ロマ 8:24）、子として御霊を与えることで、自由に御父に出るようになります（ガラテヤ 4:5-6）。聖なる者とさせ（ヨハネ 10:28）、その方の完全な救いに参与できるように、幸いな宣言を下します（黙 14:13）。

④ イエスだけが救い主とされますが、その方だけが罪人の救いを成就させるからです（テトス 3:4-6）。御父は、その御子を救い主と定め、彼にその職務を任せられ、聖霊は、イエスさまを、その民と交わりを保たせます（ヨハネ 16:13-15）。それで、イエスさまだけが完全であり、唯一の救い主とされるのです。従って、キリスト以外に救いを受けられる他の名は与えられていません（使徒 4:12）。私たちは、ただ信仰によって、その方を受け入れることで、所有することができます。その方に対する信仰なしには、決して救いはあり得ないのです（ヨハネ 1:12）。

質問 30. 自分の救いと幸せを、聖人や自分自身や他のどこかに求めている人々は、イエスを信じていると言えますか。

答え I いいえ。たとえ彼らが言葉で主を誇っていたとしても、その行いにおいては、救済者、また救い主を否定することです。<sup>01</sup> イエスが完全な救い主でないとするか、そうでなければ、この救い主を真実な信仰を持って受け入れ、自分の救いに必要なすべてを主によって探すか、二つの中で一つです。<sup>02</sup>

① この質問は、キリストを信じない者たちに対する言及ではありません。キリストを主と告白し、信じる者たちに向かつてのことです。それは、何よりもローマカトリック教会を念頭に置いてのです。彼らはキリストを救い主と信じると告白するけど、キリストの外で救いを探しています。ローマカトリック教会は、聖人を（マリヤを含めて）造り、彼らに崇拜し、彼らに祈ります。理由はマリヤと聖人たちが自分たちのために仲保してくれると信じるからです。

彼らは、マリヤと聖人たちを仲介者の位置にまで引き上げています。さらに彼らは、マリヤと聖人たちに対する像を作っておいて、それらにお辞儀をします。とても偶像崇拜的な行為です。従って偶像を捨て、ただキリストを通して救いを求めなければなりません。キリスト以外に仲介者はいないからです。

② ローマカトリック教会は、救いと幸せを自分自身から探します。つまり、断食と救済、巡礼、肉的な苦行のようなことを通して救いを求めます。自分の善行によって神の救いの徳を積み上げると考えるからです。ロマ 3 章 28 節で語っているように、律法の行いによっては義と認められる者はいません。

---

01 1 コリント 1:12 - 13、ガラテヤ 5:4.

02 コロサイ 1:19-20, 2:10、1 ヨハネ 1:7.

自らの宗教的行為によって救われようとする者は、まだ、自分自身の弱さと無能を悟れないでいるせいです。やはり、神に屈服されていない状態です。自分の腐敗性と罪性を悟って、自分の行為によっては、自らを義と認められないことを悟った時に、キリストの義を頼るようになります。やはり、自分の行為によって義と認められようとするのは、未だに、霊的に目覚めていない証拠であり、それゆえ、傲慢な状態だといえるのです。

③ ローマカトリック教会は、救いを他の所で探します。ミサ、木の十字架、司祭に出て罪を告白することで救いを求めます。ミサを捧げたことが恩徳となり、救いを有効にすると信じます。また司祭に、罪を告白することで赦しを受けられると考えます。このようなことは、すべてキリストが唯一の救い主であることを否定する行為です。

このような行いをするのは、キリストが完全な救い主でないということです。キリストの完全性と充分性を否定することです。まるで、ガラテヤ教会で起こった事件のように、キリストを信じないで律法の儀式を再び行うべきだと主張することと同じです。その危険性は、人間の功労が含まれることで、恵みより、人間自身の行為を根拠とする自己義に陥るようになることです。

④ 勿論、彼らは口では、キリストを誇り救い主だと告白もします。しかし、それと同時に、このような儀式的行為もすることによって、キリストを否定する者たちです。彼らは迷信に落ちいたりもします。十字架を持って病気を治そうとしたり、聖なる水を撒いて悪霊を追い出す儀式を行ったりもします。そのようなことをキリストが命じたのでもなく、歴史的に見た時、異教徒たちの儀式が教会の中に入って来ているのです。

⑤ そうだとすれば、ある者はこのような質問をすることができます。ローマカトリック教会で救われることがあり得ますか。ヨハネの黙示録 14 章を注意深く読んで見ると、私たちは答えを得られます。そのような教会に属していても、

迷信的な行為に従わないで、そのようなことをも信頼せず、信仰を持ってイエスさまを愛する者がいるなら、その人は救われます。しかし、彼らの状況が霊的に非常に暗く、悲しい状態にいるので、果たして救われた民がいくらかでもいるだろうかという嘆きが出て来ます。聖書に根拠せずに、人間の言葉や誤りの中にいるなら、救いはあり得ないです。なぜなら、聖霊さまは誤りの中では御業を行わないからです（1ヨハネ4:6）。

⑥ 質問 30 番において、ハイデルベルク教理問答書の歴史的状況はローマカトリック教会でしたが、今日、私たちの状況ではアルミニウス主義者たちを含めることができます。アルミニウス主義者たちは、イエス・キリストによって救いの恩徳を、ただ可能性だけとみて、人間の自由意志の決定が救いを決定する要素だと言います。それは、イエスさまを完全な救い主ではなく、救いを可能にする救い主 **Possible savior** を造ることです。彼らは、教皇主義者たちとあまり変わりがありません。新生していない人間の自由意志を持って、キリストを受け入れることはできないのです（ヨハネ1:13）。

⑦ ならば、ただ二つの可能性だけがあります。ローマカトリックや、アルミニウス主義者たちは、イエス・キリストを完全な救い主として見ないのです。彼らが、いくらキリストを救い主と告白したとしても、それは、言葉に過ぎないことで、真実な救いの信仰ではありません。従って、自分の救いのために必要なすべてを、ただキリストからのみ探すのが必ず必要です。救いをただキリストからのみ探すとは、自分の不義を徹底して認め、自分の無能を告白し、行為によって、自らを正しくさせようとすることを放棄し、ただキリストから赦しを受け、その方の義によって、自分の不義を覆われたいと望むことです。